

一般財団法人京都ユースホステル協会

2015 年度事業計画書

期間：2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日



一般財団法人京都ユースホステル協会は、
新しい旅と、旅する青少年の健全な成長を応援します。

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内

TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289

URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目次

目次	2
はじめに	3-4
事業方針	
・ 実行指針	5
・ 重点施策	5
事業活動	
I. ユースホステル活動	6-7
II. ユースホステル関連活動	8
III. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	9
IV. 天橋立ユースホステル（指定管理事業）	10
V. 組織運営	11
予算概要	12
組織概要	13

はじめに

本年度は、宇多野ユースホステルや天橋立ユースホステルの指定管理が更新され、新たな気持ちで事業や施設運営に取り組む年と位置付けました。

いまさら言うまでもありませんが、ユースホステル運動は、国内外の旅行者が、魅力に富んだ各地固有の自然や歴史、文化や生活習慣に触れ、その価値を理解し、尊重し、感性を養う機会を世界的な規模で提供しております。

また、そのために必要な人種や国籍、肌の色、宗教、性別、階級や政治的信条の違いなどによる差別のない宿泊施設として、ユースホステルの設置や運営に取り組んでおります。

これらの活動は、とりわけ若い世代にチャレンジ精神や知的好奇心、他者を思いやる心や生きる力を育み、若者自らの成長に寄与しております。

しかしながら、現在の日本では活動への理解は進まず、若い世代の参加や施設利用の減少が続いております。

国際ユースホステル連盟においても、社会の変化や若い世代の意識等に活動を適応させるため、2014年8月にバンコクで開催されました国際総会において、「3つの原則」「4つの価値基準」(次頁)が採択されました。

京都ユースホステル協会においても、新たな指定管理がスタートする年を迎え、ユースホステルらしい地域固有の価値を活かした取り組みや施設運営の工夫が、今まで以上に求められております。

宇多野ユースホステルでは、これまでとは違った利用料金制による指定管理運営となり、天橋立ユースホステルにおいては耐震補強が計画され、将来を見据えた持続可能な自立した運営がより求められる状況にあります。また、京都縦貫道の開通を記念し、京都北部の活性化への期待も大きい「海の京都博」が始まるなど、京都や丹後・天橋立においても変化が生まれてきております。

2015年度は、こうした状況を受けて、あらためてユースホステルの原点に立ち返り、これまで積み上げてきた取り組みや事業をさらに発展させるために、より多くの活動者や団体、専門機関や事業者、地域との連携を更に深め、若者を対象とした新たな事業や施設運営に今まで以上に積極的に取り組みます。

その他、今後も拡大が見込まれる外国人旅行者への魅力的な体験や交流、サービスの提供に取組み、3年後、4年後を見据えた事業、組織、財政基盤の充実に取り組んでまいりますので、事業や施設運営に対するご支援はもとより、ユースホステル本来の理念や活動へのご理解と普及へのお力添えを重ねてお願いいたします。

業務執行理事 高田光治

『3原則と4つの価値基準』

3原則：

I. 「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- ・ 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- ・ 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- ・ 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- ・ 違いや多様性の尊重
- ・ 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

II. 「学ぶ権利」の原則

- ・ 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- ・ 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- ・ コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- ・ 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- ・ 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

III. 「持続可能性に対する義務」の原則

- ・ 持続可能なツーリズム活動の推進
- ・ 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- ・ 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- ・ 地域社会への貢献／フェアトレード

4つの価値基準：

I. 利用し易さ（Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

II. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

III. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

IV. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

事業方針

[実行指針]

1. つなぐ：Connect

特に若者に主眼を置き、旅行者同士、また旅行者と世界や京都の橋渡し

2. つながる：Co-operation & Collaboration

世界のユースホステルや関係機関、団体、地域と連携・協働による多様性の創出

[重点施策]

1. 外国人宿泊者の利用拡大

ユースホステルの最大の魅力である多様な交流の機会を生み出すために、「宿+体験」プランやニーズに合ったサービスの提供や実施により、外国人宿泊者の利用拡大を目指します。

a. 宇多野ユースホステル 外国人宿泊実績目標：11,000名

b. 天橋立ユースホステル // : 700名

2. 情報の収集、取りまとめ、発信の強化

活動の取り組みによる成果や効果、ユースホステル滞在中の非日常的な出来事は、当協会や旅行者にとって魅力であり、貴重な財産です。それらを一つひとつ拾い集め、蓄積し、関係機関や地域、国内外の旅行者等に積極的に発信します。

3. 利用料金制、新体制での安定的な組織運営の基盤を確立

利用料金制によるユースホステル運営やそれに伴う運営体制の変更等に対応し、持続可能で安定した組織運営のための基盤作り（目標・人材・財務状況のマネジメント）に努めます。



※事業・イベント風景

事業活動) 1. ユースホステル活動

本来の目的である青少年育成団体として重要視する「旅を通じて若者が学びや気付きを持てる場づくりが提供できているか」を把握する仕組みを作ります。継続している事業については、各種団体・個人と連携しながら更に効率性と多様性を図り、また目的に沿った場作りに繋がるよう工夫・改善を行ってまいります。

[事業分野別目標]

- ユースホステル活動における学びや気付きを抽出する仕組みを作る
- イベント参加者数：延 16,500 名（前年度目標 15,000 名）
- イベント参画者満足度：8 点以上（10 点満点）

[活動内容]

1. ユースホステル活動における効果測定のための取り組み
 - a. 活動に関わる青少年に対して交流分析シートを実施しその変化を抽出
 - b. 事業及び日常の中で起こる事象等活動状況・データの収集、蓄積
 - c. ホステラー（宿泊者）や連携先に、ヒアリング・アンケート等による活動の認知度や満足度調査の実施、また次年度以降の指標策定に活用
2. ユースホステル運動普及活動
 - 【青年層を対象とした事業の実施】
 - a. 若い人に旅の学びや魅力を伝える「若旅授業」の実施（新規）
 - b. 地域の課題を話し合う場「京都わかもん会議」との連携（新規）
 - c. 子ども向け事業の継続：ネイチャーキッズ、フレンドステイ他
 - 【青少年活動を支援する層を対象とした啓発事業の実施】
 - d. 「みんな歩こうファミリー万歩」運営支援及び 600 回記念事業の実施
 - e. 宇多野ユースホステルの地域向けイベント「ワールド UTANO マルシェ 2015」の実施
3. ユースホステル交流創出活動
 - 【ユースホステルを使った交流事業の継続・発展】
 - a. 市民イベントの拡充と交流の場のコーディネート
 - b. 旅の楽しさを伝えるサロン「旅のコンシェルジュ」（従来の若者コンシェルジュの拡充）
 - c. 京都在住の留学生が参画する国際交流サロン「Youth Style Cafe」の実施（新規）
 - d. 朝の体験活動の実施（新規）
 - 【インターンシップ等青少年の就労や社会体験の場の提供】
 - e. 地域の魅力抽出と情報発信プログラムの実施
 - f. 異文化交流等子ども対象プログラムの試行

g. 就労体験・社会体験プログラムの協働

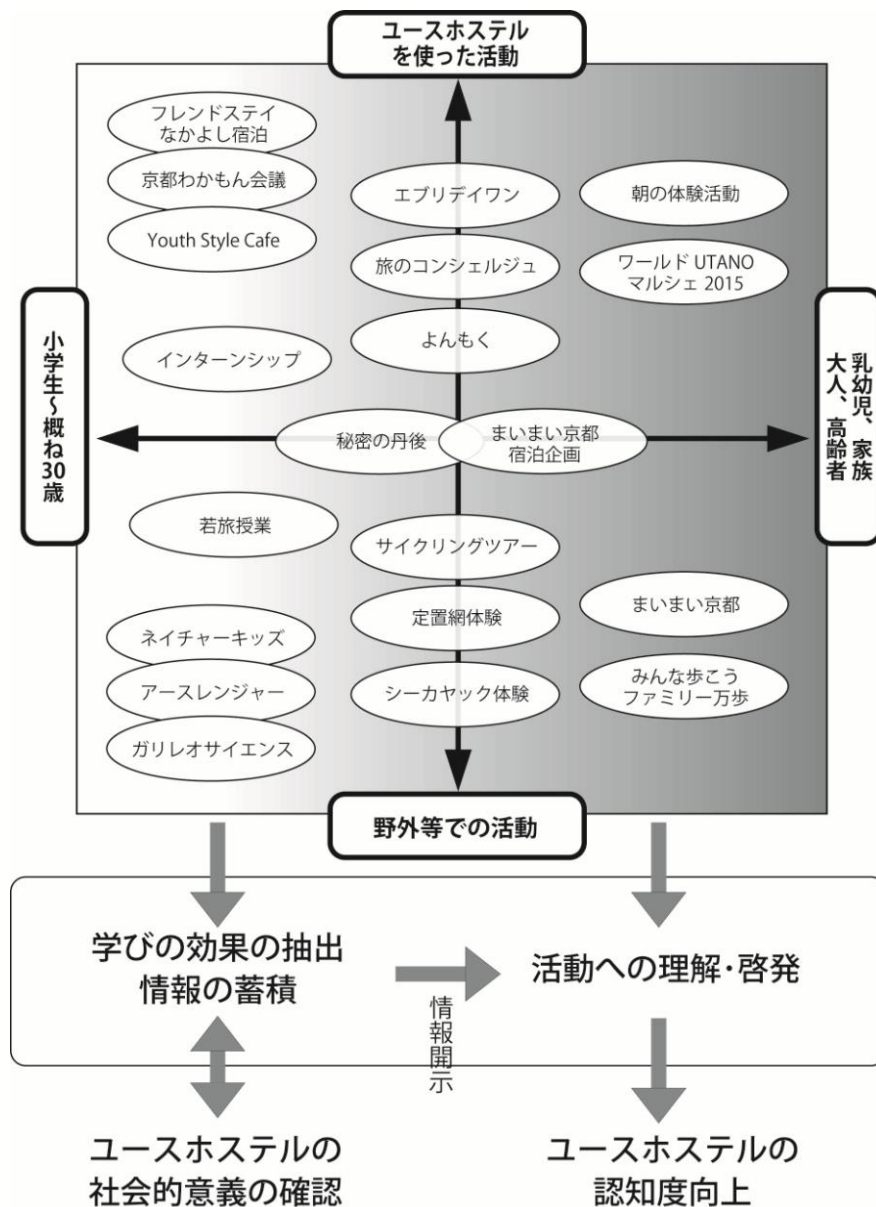
連携予定先：立命館大学、大学コンソーシアム京都、台湾・南台科技大学、日独平和フォーラム、CIEE、海外ユースホステル協会スタッフ、鳴滝総合支援学校ほか

4. 旅（ホステリング）事業

a. 京都まち歩きミニツアー「まいまい京都」の継続

支援及びユースホステルとの連携事業の実施

ユースホステル活動一覧図 ※天橋立ユースホステルの活動も含む



事業活動) II. ユースホステル関連活動

安心して口にいられていただく食事の提供など、食の安心、安全に努めます。また食物アレルギーや思想、宗教的な制約など、多様な食のリクエストに対応することが必要とされています。

そうしたことを踏まえ、対応できるところから一つ一つ確実に受け入れ可能な範囲を広げ、宿泊に花を添え楽しみとなるような満足の高い食事やサービス提供に継続的に取り組みます。

[事業分野別目標]

- 食事提供数：(夕食) 20,020 食、摂取率 52% (前年度目標 19,500 食、摂取率 52.7%)
(朝食) 30,800 食、摂取率 80% (前年度目標 29,600 食、摂取率 80%)
- アンケート満足度評価：4.5 以上 (5 点満点)

[活動内容]

1. 衛生面の徹底等の安心、安全の向上

安心、安全な食事提供のために、調理、配膳等での衛生環境向上に継続的に取り組みます。

- a. 食事提供従事者への保菌検査を定期的を実施し、食中毒等の予防に努めます。
- b. 出入業者への保菌検査や自社検査結果の提出などへの協力を求めます。(新規)
- c. スタッフへの講習やミーティングにより、衛生面に関する知識や意識の向上を図ります。
- d. 食品の保管や調理方法、手順など、日々の作業を見直し、改善に努めます。

2. よりよい食事環境の整備

居心地のよい食の環境づくり取り組み、食事の満足度向上に努めます。

- a. 清潔な食事場所の提供や快適な室温設定、心地よい BGM など、利用者への気配りを大切にした魅力的な食事環境の提供、維持に努めます。
- b. フレンドリーで気持ちの良い接客など、スタッフのスキル向上を図ります。

3. 多様なニーズへの対応

アレルギーや思想、信条、宗教等の多様な食事ニーズへの対応と間違いのない安全、安心、確実なサービスの提供を行います。

- a. アレルギー等の食事提供をより安全確実に行うための複数チェックの実施
- b. アレルギーの状況に対応した適切な食品の選択や使用の徹底
- c. 提供する食事の食品成分表の作成や活用による安心、安全への配慮

4. 満足と利益につながる取組

より魅力のある食事の提供と販売促進による食事摂取数の向上に取り組む他、提供までの過程の見直しや無駄を出さない食材処理や調理等により、安定した運営を可能にする収益確保に努めます。

- a. 修学旅行団体へ地域の食材等を活かした和食を中心とした特別メニューの提供 (新規)
- b. 「おばんざい料理の日」など京都らしい食事メニューの提供等の取組み (新規)
- c. ロスを少なくする発注や在庫管理の徹底
- d. 地域の方等、宿泊以外の方へも朝食等を提供 (新規)

事業活動) III. 宇多野ユースホステル

新規指定管理初年度の2015年は、設置目的である青少年育成施設としての役割をしっかりと土台に据えて運営を行います。あらゆる国の若者がこの京都で学び、体験し、交流する機会と清潔で安全な施設を提供し、旅を通じて育まれる彼らの成長を支援します。また、こうした支援を円滑に行うために、より多くの賛同者、協力者が参加できる機会づくりに努めます。

[事業分野別目標]

- 年間宿泊者数：38,500名（前年度目標 37,000名）
- 年間外国人宿泊者数：11,000名（前年度目標 10,000名）
- 年間青少年宿泊者数：23,100名（新規目標／～30歳、全体宿泊数の60%）

[活動内容]

1. 特性を活かした体験の提供

宇多野ユースホステルが行ってきた経験を軸に、京都の文化や歴史を活かした新規事業開拓も積極的に行うことで宿泊者に旅を通じた様々な機会を提供します。

- a. 京都を感じるプログラムやエコプログラムの提供や紹介
- b. 学校訪問や近隣の施設における文化体験のアレンジ
- c. 日本の修学旅行生や研修旅行生に対し、世界に触れてもらう機会の提供

2. プロモーション活動

施設と地域の魅力を十分に情報発信することで、国内および海外の青少年層を中心に利用を広げます。

- a. 国際的なユースホステルのネットワークを活かした情報発信
- b. 青少年育成団体や学校団体等を取り扱う旅行会社への営業活動
- c. 青少年を主体とした宿泊キャンペーンの実施（新規）
- d. 京都文化交流コンベンションビューローやJNTO（日本政府観光局）主催の外客誘致プロモーションへの積極的な参加

3. 健全で快適な施設の提供

宿泊者が居心地良く利用できるよう施設のハードとソフトの整備に努めます。あわせて運営側スタッフにとっても健全で元気の職場を作る事を目指します。

- a. 利用者の安全と快適性を第一に考えた施設の整備と提供
- b. 環境に配慮した運営に積極的に参加していただく働きかけ（KES、HI-Q等）
- c. 各スタッフがその能力を最大限に活かせるための研修の実施

4. 地域との連携と還元

地域と宿泊者をつなげる様々な交流事業を展開します。そして、その交流の経験が地域の青少年たちの成長にも貢献出来るようにします。

- a. 学校や地域と旅行者をつなぐ交流プログラムの実施
- b. 地域の活動グループや学生が活動出来る場を提供

事業活動) IV. 天橋立ユースホステル

今年度は、京都縦貫自動車道の全線開通や「海の京都博」の開催など、府北部での取り組みが進む中、地域の方がユースホステル対してのプラスのイメージを更に広げる「国際性」・「人が集う多様な出会い」・「面白そうなことがいろいろある」といったことを具体化し、旅人と地域との交流が図れるための取り組みを積極的に行ないます。

また、若者層にアピールするため、館内や寝室のイメージアップ、宿泊プランやプログラムの実施、増加傾向にある外国人旅行者の誘致のため、WEBの整備やサービス充実に取り組みます。

あらたな指定管理の年を迎える一方、開所から52年目を迎え、担当課はじめ各機関との連携を密に、将来を見据えた持続可能な自立した運営を可能にする施設改修等にも取り組み、財政的にも健全な運営を目指します。

[事業分野別目標]

- 年間宿泊者数：3,500名（前年度目標 3,600名）
- 年間外国人宿泊者数：700名（前年度目標 550名）

[活動内容]

1. 施設の魅力を高める取り組み
 - a. 看板や表示の新調、フロント照明の取り替え、布団カバーの新調等、計画的な館内外のイメージアップの遂行
 - b. 共有スペースの周辺情報を整理と見せ方の工夫、またペアレント自らが周辺紹介をし、ユースホステルに滞在するからこそその天橋立の魅力の発信
 - c. 丹後米の使用や洋朝食の実施などのメニュー改善
2. 若者層や更なる外国人受入のための取り組み
 - a. ホームページや Facebook、予約サイト等の案内について、イメージ写真や掲載内容の充実と英語情報の作成
 - b. 海外ボランティアや外国語補助教員（ALT）等の宿泊誘致
 - c. 大学ゼミやサークル向けの合宿プラン、若者対象の割引プランの実施
3. 地域と連携し地域資源を活用したプログラムの発掘や実施
 - a. 丹後の新たな魅力の発掘や旅の場づくりをする地域交流サロン「よんもく」の定期開催
 - b. 丹後の隠れた魅力を地域の方と一緒に旅するプログラム「秘密の丹後」の開催
 - c. 阿蘇海サイクリングツアーの実施
 - d. 釣り体験など観光協会のプログラムによる宿泊プランの企画・実施
 - e. シーカヤック体験、定置網体験の継続実施
4. 天橋立ユースホステルの将来を見据えた取り組み
 - a. 施設の維持・改修のための担当課はじめ各機関との継続的な協議
 - b. 自然や地域景観と調和した環境にやさしユースホステル運営の取り組み

事業活動) V. 組織運営

当協会において重要な宇多野ユースホステルの運営が利用料金制に変わるに当たり、全体で取り組みの方向性を共有し、一人ひとりがリーダーとして自立的に行動出来る人材の育成が、今まで以上に大切となっております。

他方では、各部門の活動や取り組みの方向性・成果を定期的に発信し、関係機関や地域の方々の理解を醸成すること、また起り得る様々なリスクの管理・回避に向けた取り組みも、今後のユースホステル運動を持続・発展させるために重要となっております。

そこで、2015年度は総合的な人材育成と多様なリスクの事前想定や管理、支援者・応援者の獲得につなげる取り組みに力を注ぎ、組織力強化と認知度向上に努めます。

[事業分野別目標]

- 人材教育計画の策定と実行
- リスクの管理・回避のための行動計画再整理の完了
- サポーター会員制度（仮称）の策定と運用開始

[活動内容]

1. 人材教育による組織力の強化
 - a. 経験や勤務年数、役割に応じた研修プランの策定と計画的実行（新規）
 - b. 全体を対象とした社会規範やモラルの醸成につながる共通研修や現場での指導の実施
2. 危機管理の徹底による組織の安定化
 - a. 想定し得る課題やトラブルの一覧を作成し、担当者と協議の上、回避のための行動計画を準備（新規）
 - b. 各種対応マニュアルや関係機関との緊急連絡網などの情報の確認と修正
 - c. 日常的に扱う個人情報の適切な処理、保管方法についての再確認
3. 支援者・応援者の獲得に向けた取り組み
 - a. 各部門の取り組み成果や効果の蓄積手順整理、取りまとめ
 - b. 蓄積情報の四半期ごとの発信と年度ごとのまとめ（本）の作成（新規）
 - c. 方針や活動に支援・賛同いただける方を取り込む仕組み作り、運用開始（新規）

予算概要

[予算概況]

2015年度は、宇多野ユースホステルの運営が利用料金制に変わる中で、納付金や事業所税、修繕引当金などの新たな支出や対応が必要になっております。また、アルバイトやパート職員の賃金見直しなどの結果、収入、支出とも増加し、当期経常利益は5,242,000円を見込んでおります。

[公益目的財産額]

2014年度の公益目的事業の収支差額は、宮津市よりの運営赤字の補てん等の措置により726,000円、2015年3月末の公益目的財産額は51,750,000円となることを見込まれます。

2015年度は、観光庁や京都府下の学校と連携した「若い人に旅の学びや魅力を伝える「若旅授業」」の実施などを計画しており、公益目的事業の当期正味財産額増減額は▲2,921,000円と減少する予算となっております。

[経営実績の推移]

	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度見込	15年度予算
経常収益(売上)	194,148,834	191,064,528	194,365,919	195,772,000	212,916,000
ユースホステル活動及び関連活動	62,046,127	58,797,653	57,124,296	56,399,000	58,113,000
指定管理業務	128,861,273	129,336,641	125,843,170	129,411,000	143,317,000
組織運營業務	3,241,434	2,930,234	11,398,453	9,962,000	11,486,000
経常費用(費用)	194,428,874	186,139,959	181,001,254	186,099,000	207,674,000
ユースホステル活動及び関連活動	60,611,996	55,982,511	47,177,042	48,877,000	51,144,000
指定管理業務	127,583,524	124,453,614	119,577,309	126,403,000	143,317,000
組織運營業務	6,233,354	5,703,834	14,246,903	10,819,000	13,213,000
当期経常増減額(経常利益)	▲280,040	4,924,569	13,364,665	9,673,000	5,242,000
経常外増減額(経常外利益)	▲16,925,000	0	▲3	0	0
当期正味財産増減額(純利益)	▲17,205,040	4,924,569	13,364,662	9,673,000	5,242,000
次期正味財産期末残高	49,460,863	54,385,432	67,750,094	77,423,094	82,665,094

※ 2011年度の指定管理業務には、「つどいの広場」が含まれています。

※ 2011年度は法人移行を行っており、法人移行前の4月～7月と法人移行後の8月～3月に分けて決算を行いました。年度の表示額は4月～3月の合計額で表記しています。

(内、公益目的事業)

	2012年度	2013年度	2014年度見込	2015年度予算
公益目的財産額(期首)	49,227,476	47,651,494	51,322,228	52,048,228
公益目的収支額	▲1,575,982	3,670,734	726,000	▲2,921,000
公益目的財産額(期末)	47,651,494	51,322,228	52,048,228	49,127,228

[2015年度予算書]

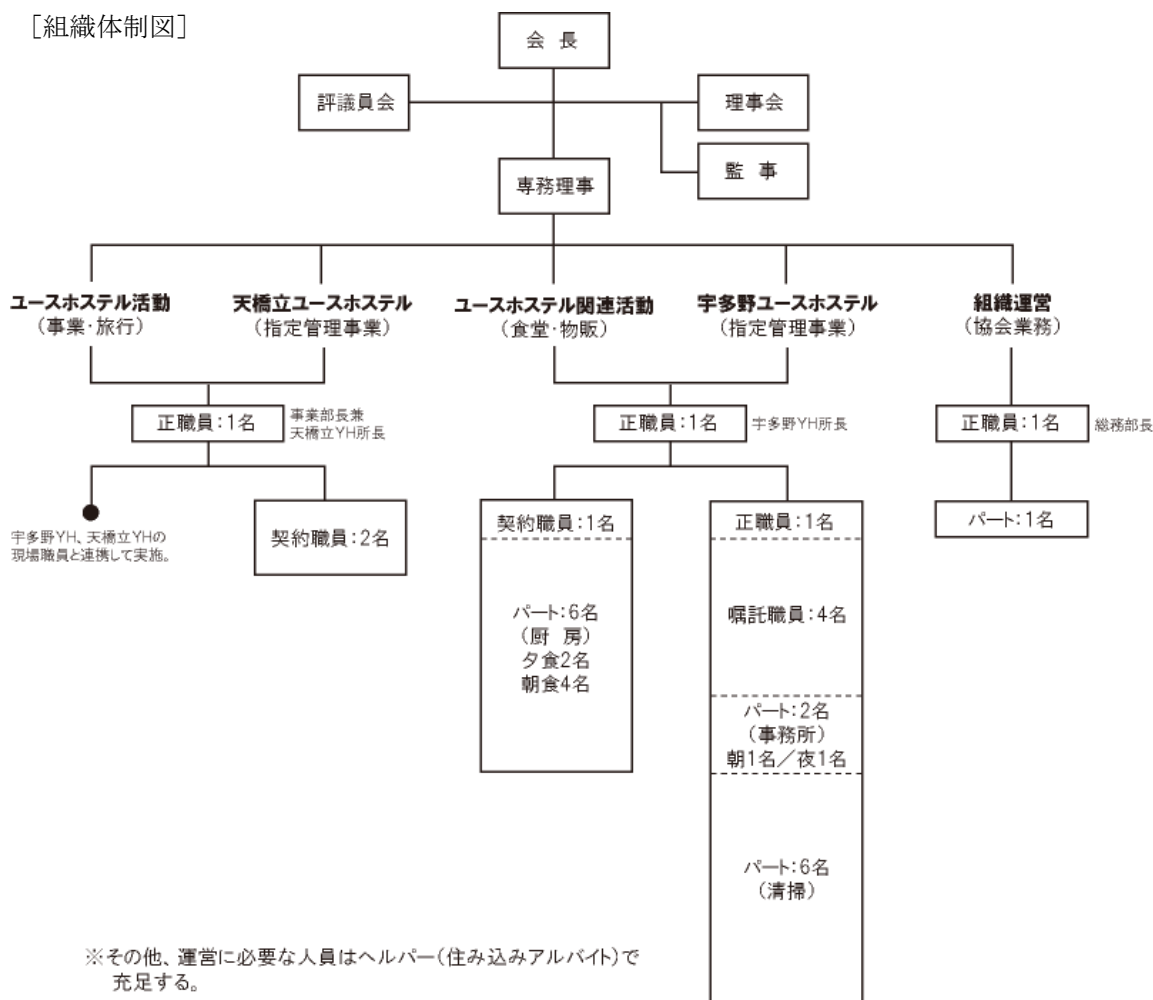
※ 別紙「2015年度事業予算書(案)」をご参照下さい。

組織概要

[組織]

業務の実態に応じ、部門を越えて機動的連携で業務に取り組む組織を継続します。

[組織体制図]



[協会役職員数]

評議員：9名、理事：9名、監事：2名、職員：29名（アルバイト・パート含む）

[協会名]	一般財団法人 京都ユースホステル協会
[代表者の役職氏名]	会長 堀場 厚
[財団設立]	1968年2月12日
	※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
[協会所在地]	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
[電話番号]	075-462-2312（代表）